

Let's talk:

嶋津幸樹の世界と繋がる IELTSブログ



英検 公益財団法人
日本英語検定協会
Eiken Foundation of Japan

BRITISH COUNCIL IELTS
Official Test Centre

第5回「IELTS リーディングで知識・教養が身に付く!概要と勉強法」

嶋津幸樹

全8回でお届けする連載「世界と繋がる IELTS」、第5回の今回は IELTS リーディングについてお届けします。実はリーディングの学習は独学で飛躍的にスコアを上げることができる分野であり、英語圏に留学しなくても日本にいながら強化できる技能の1つです。今回は IELTS リーディングの概要とおすすめのリーディング教材と共に大量のインプットに繋がる習慣化の方法について紹介します。

IELTS リーディングは合計 2,150~2,750 語程度の3つの長文で構成され、計40問が出題されます。ジャーナル、雑誌、新聞等の記事など日常の話題から、歴史や心理学などの人文系、物理や科学などの理系の学術的な内容まで幅広いテーマが扱われます。60分という限られた時間で読み解き、解答用紙に解答を記入する必要があるため、初学者にとってはハードルが高いと思われかもしれませんが、この程度の分量のリーディングは IELTS 取得後の留学をはじめとする環境では日常的に読み解くこととなります。例えばイギリスの大学・大学院では1週間に数百ページの課題が課されることもありますので、IELTS 対策の段階から心構えを持っておくことが重要です。IELTS に向けて学習する上で大量に英文を読むということが大前提です。

本題に入る前に基本的なリーディングの理論について触れておきましょう。英文読解は語彙知識と文構造、パラグラフ構造を瞬時に理解して既存の知識と結びつけて意味を理解するプロセスであり、ボトムアップ処理 (bottom-up processing) とトップダウン処理 (top-down processing) の2つの情報処理の考え方があります。ボトムアップ処理は読み手が単語やフレーズ、文や段落などの具体的な情報を順番に処理して、全体的な理解に繋げる方法で、トップダウン処理は読み手の事前知識、文脈、予測、仮説などの高次の要素を活用して、テキストを理解しようとする方法です。研究によるとこの2つ戦略を巧みに効果的に組み合わせる相互補完モデル (interactive-compensatory model) と呼ばれるインタラクティブ処理が有効であるとされています。ここでスキーマ (schema)、いわゆるコンテキストに対する背景知識が重要になってきます。

リーディングにおいてスキーマを活性化することが英文読解の最大の利点となります。新しい情報と既存のスキーマが一致することで情報処理が早くなるため、IELTS で出題される傾向のあるテーマの親和性を高めておくことが重要です。日頃から雑誌や新聞、ウェブなどで多種多様なコンテンツに目を向け、興味のある分野から背景知識を増やしていきましょう。文章を読む前にコンテキストを与えられた場合は内容の理解度が向上するという研究もあり、語彙力よりも背景知識の方が重要であるということも分かっています。また自分の好きな分野や自分にとって読みやすい記事を見つけることで、学習面における継続性が期待できます。趣味や気晴らしに

繋がる英文記事から大学や大学院で学びたい学問に関連した記事まで没頭できるテーマを見つけて毎日英文を読む習慣をつけましょう。

次にリーディングに必要な語彙力について考えていきます。スキーマを活性化すると同時に語彙知識があることで認知負担を減らし読解スピードを上げることができます。そもそも IELTS ではどの程度の語彙力が求められるのでしょうか？一般的に言われているのが未知語の割合が多いと英文を理解することが困難になり、既知語がテキスト全体の 80% のみの場合はほとんど読解できないと言われています。研究によると英文を理解するためには 98% の既知語を知っている必要があり、IELTS リーディングの場合は約 700~900 語なので 20 語彙程度以上未知語がある場合は語彙学習が不足しているということになります。8,000 語~10,000 語レベルを目指しながら、まずは英検準 1 級に出題されるレベルの英単語を徹底して覚えるようにしましょう。

それでは実践に移り、IELTS7.0 以上を目指す上級者向け、IELTS6.0 を目指す中級者向け、IELTS5.0 を目指す初級者向けの3段階に分けて紹介していきます。まずは留学前に私自身が実践していた上級者向けのリーディング勉強法を紹介します。日曜日に 500 語から 700 語の興味のある記事をインターネットや英字新聞から 7 記事を厳選して印刷し、月曜日から日曜日までの付箋を貼ります。1 日 1 記事を流し読みして、重要だと感じる未知語を抜き出し、派生語、語法を調べ、発音を意識しながらその記事をスラスラ読めるようになるまで音読します。1 日 1 記事、薬を飲むかのように読破していきます。IELTS 上級者向けであるこの対策法を 3 カ月間続けると飛躍的にリーディングが向上することが実感できるでしょう。

次に IELTS6.0 を目指す中級者向けには英語学習者のための英字新聞 The Japan Times Alpha (以下 Alpha) をお勧めします。最大の利点は適材適所に日本語の訳と解説、そして記事の要約などがある点です。初学者がオールイングリッシュの記事を読むときには認知的負担がかかってしまいましたが、Alpha では重要語彙が太字になっていて脚注に日本語訳がまとめられているため、未知語に遭遇しても辞書で調べる必要がなくスラスラと読めてしまいます。内容は身近な話題から社会問題、時事問題、旅行や映画の特集、そして僕の連載「英文ライティング講座」もありますので多方面から英語にアプローチできます。そして何よりもウィークリーで自宅に届けられるので英語で情報を得ることの習慣化に繋がります。

最後に IELTS5.0 を目指す初級者におすすめしたいのが速読 (speed reading) ・精読 (intensive reading) ・多読 (extensive reading) の繰り返しです。英語の小説やエッセイを一語一句訳して読み始めて途中で挫折したという経験がある初学者は多いのではないのでしょうか？精読が得意な日本人英語学習者が多くいますが、最初に手をつけるべきは速読です。私自身も長年愛用している語彙習得研究の権威 Paul Nation の Reading for Speed and Fluency (Compass Publishing) という教材は英語を学ぶ全学習者におすすめしています。世の中のあらゆるテーマが語彙レベル別に 400 語程度にまとめられ、選択問題で理解度を確認し、読解速度を計測する仕組みになっていて楽しみながら読むこと (reading for pleasure) が実現でき、その繰り返しが多読に繋がります。

今回のポイントをまとめると、「ボトムアップ処理とトップダウン処理の 2 つの情報処理」、「IELTS リーディング成功の秘訣は背景知識と語彙」、「レベル別のおすすめのリーディング勉強法」です。8,000~10,000 語レベルの受容語彙、つまり見てわかる、聞いてわかる語彙を習得、そして速読・精読・多読の繰り返し、自分にあったリーディングの習慣化を実現していきましょう。次回は英語試験で最も過酷と言われる IELTS ライティングについてお届けします。